

安芸納税貯蓄組合連合会会長賞

「税について」

安芸市立清水ヶ丘中学校 三年

富田 知花

私は「税に関すること」と聞くと、小学校のころに見た税金についてのビデオを思い出しました。内容は、税金の無い世界で税金によって働いている機関などが現実と違うものになっていて、当時の私にとっては怖かった気がします。

そのビデオでは、道の整備やゴミの回収などがおこなわれてなくて、消防署や警察が有料になっている他にもいろいろな不便な所や、現実ではありえないような様子があって見ていたら「こんな世界、嫌だなあ」と思い始めてきました。そのころは消費税ぐらしか知らなくて、いろいろな所に税金が使われていると知ってびっくりしました。消防署や警察は電話をただけで駆けつけてくれる存在で、その際にお金がかかるとか考えたことがなかったし、学校に行くのも、ゴミの収集もごく当たり前のことだと思っていたから、その裏に税金がからんでいるなんてビデオを見るまで知りませんでした。

中学校三年で、この作文を書くために税の資料を見たら、税金にはたくさんの種類があるとあらためて知りました。たばこ税や酒税、ゴルフ場利用税など聞いたこともない税金があって、こんな特殊な税金もあるんだなと思いました。他にも税金のくわしい使われ方やかかわりなど、資料を見て税金についての知識がグンと増えました。資料を見てると、税金は私たちの暮らしにすごく役だっていて、身近に使われているお金なのに、私たちはその活躍に気づいていないんだなと思いました。それでも、当たり前の生活が成り立っているのは税金のおかげなので、税金ってあなどれないなあとも思いました。

少子高齢化が進んでいる中で、税についての問題が「高齢者を支える働き手が少ない」ことです。こうなると、一人分の税の負担が大きくなり、その人の収入が減ってしまうと思います。働いてる人にとっては、その負担はたぶん辛いもので嫌になると思います。でも、働くことのできなくなった高齢者たちが安心して暮らしていくためには、私たちの税金が必要となってくるので、これは「負担」よりも「人助け」ってことになるのかもしれない。

税金は、私たちの暮らしや経済、技術を支えてくれる大きな役割をもったお金だと、この作文を通してわかりました。